

# 地域連携センター一年報

## 第8号（平成26年度）



**愛知県立大学**

AICHI PREFECTURAL UNIVERSITY



## 地域に望まれる大学の姿の模索

地域連携センター長 戸田尚宏

本年度の地域連携センターの事業として特筆すべきものは、まず隣接する愛・地球博記念公園との包括連携協定の締結であろう。昨年度よりそのあり方に関して公園側と何度も会合を重ね、ようやく7月、公園の夏祭りの中央ステージ上での締結式開催の運びとなった。同時に情報科学部のロボット展示や多文化共生研究所からのゲル展示、写真展を行い、学長以下スタッフ全員が、大学のロゴ入り T シャツを着て本学のアピールを行った。この協定を基に公園での学生実習や研究の実験、あるいは公園側との施設の共同利用など、より実り有る双方の発展が期待される。既に来年度の都市緑化フェア、その期間中に行われる緑化祭などの計画の中で本学の寄与は明確となりつつある。退職した教員による公開講座である県大アゲインは昨年度まで他の公開講座と同様に学部単位で持ち回る实施方式であった。しかし、学部によっては退職教員を確保する事が困難な場合もあることや、専門に偏る必要もないこともあって、学部には依頼する形ではなく地域連携センター主導の企画とした。本年度は、平成25年3月退職された情報科学部 OB の横田幸夫先生がコーディネータを引き受けて下さり「語源で語る諸科学の切り口」をテーマに種々の分野から馴染み深い先生方の講演を戴いた。これも大変人気が高く、一時はサテライトキャンパスの定員を超えてしまうのではないかと危惧される程であった。日本文化学部の企画による公開講座（学術講演会）「歴史とフィクションの間」では、NHK チーフプロデューサー屋敷陽太郎氏による大河ドラマの制作の舞台裏、また国民的アニメーションを幾つも世に送り出してきたスタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーによる製作秘話の披露をはじめとし、各界の著名人による講演は大変好評であった。また知の探究講座は情報科学部の先生方の努力により、好評を頂いている。また、愛知県地域振興部との連携による「地域づくり連携大学」や「地域づくり活動フォーラム」をはじめ、地域連携事業として多くのセミナーなどが開催され、企画ならびに実施の労を頂いた先生方、事務の方々には、ここに深く感謝する次第である。

さて、地域連携センター長として任を戴き3年が経過した。地域連携センターは平成19年度発足であるから今年度で8年である事を考えると、知らぬ内に長い期間重要な役職を占拠してしまい、大学の本来ある筈の発展を妨げてしまったのではないかという危惧を禁じ得ない。特に大学の規模での補助金の性格や標準的なスケジュールを全く理解しないまま、またそれに応募するという事から帰結される全てに対して全く見通しの立たないまま、文科省の「知の拠点整備事業（COC）」の申請業務に携わってしまった。この件に関しては昨年度の年報にも巻頭言で不採択であった旨報告した。本年度、2回目の申請を行うにあたり、ある程度昨年度の経験が活かされはしたもののやはり不採択であった。この間、テレビ、新聞などのメディアで紹介される他の地域の自治体や大学の地域再生への取り組みに対して敏感となり、そうした例が何故可能であったのかという観点から考えることが

多かったが、毎回共通して帰結されるのは、そうした取り組みは一朝一夕に始められるものではなく、熱い志によって時間をかけ、構成員相互の信頼の下、丹念に作り上げたものである、ということであった。しかし、そのようなものが存在したとしても、必ずしも補助金に採択される訳でもない事は公大協の報告でも明らかである。すなわち、もし、「地域のための大学」を標榜する事で本学のプレゼンスを上げる事を狙うとするなら、補助金が出るから何かアイデアを捻り出して申請するというその場限りの対処では到底その目標を達成する事は不可能ではないか、と考えられた。ではそれを実践するためにはどうすれば良いのか。常に県庁を始めとする自治体に出向き先方職員らとの信頼関係を構築した上で地域課題（ニーズ）の共有を進め、さらに学内におけるシーズの模索とマッチングを検討し、そうした中で大学全体として責任をもって継続していくものを定めて行くことであろう。そのためには、それなりの人材を確保し、大学の方針を打ち出し、実践する部署が必要となると考えられる。

しかし、これを可能とする大学の姿はあまりにこれまでの大学の姿とは異なる。学術というものは、現実の社会において問題となる事を解決するための方法を体系化する理論を打ち立て、適用できる場面を増やすため、さらに理論の抽象度を上げていくものであると認識している。これまでの大学は、もちろんこの作業を研究として進め、学生はそこで得られた理論を修得していると考えていた。現実の問題を解くために作られてきた科学を推し進める、これがこれまでの大学の姿である。

そうしたこれまでの大学の姿は不十分であるということなのか。多様な状況に見通し良く対処するために、より一層理論に磨きをかけよ、という意味で不十分なら理解できるが、どうも違うらしい。より直接的な地域との係わりを要求されているように感じる。

大学を Global(G)型、Local(L)型に役割分担し、L型では職業訓練に徹するべきだという議論がある。しかし、今地域で望まれている人材は「多様な問題解決能力」を持つ者であって、工場において現時点で使われている機械の使い方を知っている者ではないと信じた。多様な問題解決能力は、現実と抽象と間の往復を何度も経験してこそ養われると考える。こうした考え方は古く浅く甘いのかも知れない。しかし、もしそうだとすると何故かを説明できないため私自身を説得できない。

知の拠点整備事業は現政権の「地方創生」という方針を取り込んで、やや方向性が変化し、さらに予算規模も大きくなって来年度の募集となった。人口減少の著しい地方の衰退に歯止めをかける政策の一環である。大学はこの歯止めに加担し地方の活性化に努めなければならない。既になりふり構わぬ状況と言えなくもない。

愛知県の状況は他の地域と異なり現時点では人口流入側であるため、文科省の基準が東京などの枠組みに分類されるとの事である。採択されるためには、これまでの施策とはかなり見かけを変化させなければならない。県と文科省の両者に対するスタンスの共通性を確保する必要がある。

現在、次期センター長を議長とするワーキンググループで議論を行っており、この年報が印刷される頃には一つの結論が出ているであろう。

## 報告書目次

1	組織と運営	1
2	地域連携センター・産学連携推進室・ 公開講座企画運営委員会	2
3	地域連携センター活動状況	9
4	活動実績	
	【地域の課題解決を目指す】	
(1)	自治体への委員推薦及び講師派遣等に関する コーディネート実績	12
(2)	学生のボランティア活動への支援	15
	【地域を支える人材の育成】	
(1)	学術講演会	18
(2)	公開講座	20
(3)	OB・OG教員による講座「県大アゲイン」	22
(4)	地域連携事業	24
(5)	高大連携事業	46
(6)	あいち地域づくり連携大学	50
(7)	愛知県地域づくり活動フォーラム	51
	【地域の多様な団体との連携】	
(1)	愛・地球博記念公園との包括連携協定締結	52
(2)	長久手市大学連携推進協議会への参加	53
(3)	産業界との連携事業	54
5	参考資料	69



## 1. 組織と運営

### 地域連携センター紹介

○地域連携活動を推進する愛知県立大学の総合的な窓口として次のような業務を行っています。



## 2. 地域連携センター規程・産学連携推進室要綱・公開講座企画運営委員会規程

### 愛知県立大学地域連携センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、愛知県立大学学則第6条の規定に基づき設置される地域連携センター(以下「センター」という。)の運営に関する基本的事項について定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、地域連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

(組織)

第3条 センターの下に産学連携推進室を置く。

(業務)

第4条 センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 行政との連携に関すること。
- (2) 他大学・研究機関等との連携に関すること。
- (3) 産業界との連携に関すること。
- (4) 小・中・高等学校との連携に関すること。
- (5) NPO等各種団体との連携に関すること。
- (6) 学術講演会、公開講座の企画・立案・実施に関すること。
- (7) 学術文化交流センターの管理・運営に関すること。
- (8) その他センター長が適当と認めた業務

(センター長)

第5条 センターに、センター長を置く。

- 2 センター長は、学長の命を受け、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は、2年とする。ただし、任期の途中でセンター長が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 センター長に事故がある場合は、センター長が予め指名したセンター長補佐がセンター長の職務を代理する。

(センター長補佐)

第6条 センターに、センター長補佐を置くことができる。

- 2 学長は、センターの運営に必要と判断した場合、センター長と協議の上、センター長補佐を指名することができる。
- 3 センター長補佐は、センター長の命を受け、センター長の職務を補佐する。
- 4 センター長補佐の任期は、2年とする。ただし、任期の途中でセンター長補佐が交替した場合は、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター運営会議)

第7条 センターの業務を円滑に運営するため、センター運営会議を置く。

- 2 センター運営会議は次の者をもって組織し、議長はセンター長をもって充てる。
  - (1) センター長
  - (2) 看護実践センター長

- (3) センター長補佐
- (4) 産学連携推進室長
- (5) 学術情報部長
- (6) その他センター長が必要と認めた者

3 運営会議はセンター長が召集する。

(委員会)

第8条 第4条第6号の業務に係る重要な事項について審議するため、公開講座企画運営委員会を置く。

2 前項の委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(産学連携推進室)

第9条 産学連携推進室(以下「推進室」という。)は、第4条第3号の規定による業務を推進する。

2 前項の推進室に関して必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第10条 センターの庶務は、研究支援・地域連携課で行う。

(補則)

第11条 この規程に定めるセンターの運営に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

地域連携センター運営会議名簿

所 属	平成26年度運営会議氏名
議長（地域連携センター長）	戸 田 尚 宏
看護実践センター長	小 松 万喜子
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐	田 村 佳 子
地域連携センター長補佐	亀 井 伸 孝
産学連携推進室長	小 栗 宏 次

地域連携センター庶務

所 属	氏 名
研究支援・地域連携課主任	三 宅 貴 子
研究支援・地域連携課主事	大 田 なぎ砂
研究支援・地域連携課	山 崎 智 夫

## 愛知県立大学産学連携推進室要綱

(趣旨)

第1 この要綱は、愛知県立大学地域連携センター規程第3条に基づき、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する産学連携推進室（以下「推進室」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2 推進室は、産学連携活動を円滑かつ組織的に推進することを目的とする。

(業務)

第3 推進室は、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産学連携を推進する事業の企画・実施及び広報
- (2) 共同研究等の窓口業務
- (3) 知的財産に関する支援業務
- (4) その他室長が必要と認める業務

(組織)

第4 推進室は、次の者をもって組織する。

- (1) 室長
- (2) 地域連携センター長
- (3) 地域連携センター長補佐
- (4) 情報科学部選出教員
- (5) 室長が指名する事務職員
- (6) その他室長が必要と認めた者

2 室長は、地域連携センター長が前項第2号から第4号に掲げる者の中から指名する。

(顧問)

第5 推進室に、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、産学連携に高い見識を有する学外者の中から地域連携センター長が委嘱する。
- 3 顧問は、推進室の活動に対して助言を行うとともに、学外の機関等との渉外にあたる。
- 4 顧問の任期は、1年とし、再任を妨げない。

(庶務)

第6 推進室の庶務は、庶務課の協力を得て研究支援・地域連携課が担当する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

産学連携推進室運営会議名簿

所 属	平成26年度運営会議氏名
室長（情報科学部選出）	小 栗 宏 次
地域連携センター長	戸 田 尚 宏
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐	田 村 佳 子
地域連携センター長補佐	亀 井 伸 孝
看護実践センター長	小 松 万喜子
事務職員（学術情報部長）	秋 田 敏
事務職員（研究支援・地域連携課主任）	三 宅 貴 子
事務職員（研究支援・地域連携課主事）	大 田 なぎ砂
事務職員（研究支援・地域連携課）	山 崎 智 夫

## 愛知県立大学公開講座企画運営委員会規程

### (趣 旨)

第1条 この規程は、地域連携センター（以下「センター」という。）に設置する公開講座企画運営委員会（以下「委員会」という。）について、地域連携センター規程第9条第2項の規定に基づき、必要な事項を定めるものとする。

### (審議事項)

第2条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 公開講座の企画・立案・実施に関すること
- (2) 学術講演会の企画・立案・実施に関すること
- (3) その他公開講座及び学術講演会に関すること

### (組 織)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 地域連携センター長
  - (2) 地域連携センター長補佐
  - (3) 各学部及び各大学院研究科から選出された者（学部・研究科の双方を兼ねる。） 各1名
  - (4) 地域連携センター長が指名する事務職員
- 2 委員会に、委員長を置き、地域連携センター長をもって充てる。
- 3 委員の任期は、1年とする。

### (会議及び運営)

第4条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。
- 3 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数の同意をもって決することとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を認めることができる。

### (庶 務)

第6条 委員会の庶務は、研究支援・地域連携課が担当する。

### 附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

### 附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

公開講座企画運営委員会委員名簿

所 属	平成26年度委員氏名
委員長（地域連携センター長）	戸 田 尚 宏
地域連携センター長補佐	原 潮 巳
地域連携センター長補佐	上 川 通 夫
地域連携センター長補佐 （兼教育福祉学部選出委員）	田 村 佳 子
地域連携センター長補佐 （兼外国語学部選出委員）	亀 井 伸 孝
日本文化学部選出	與那覇 潤
看護学部選出	古 田 加代子
情報科学部選出	大久保 弘 崇
学術情報部長	秋 田 敏
事務職員	三 宅 貴 子
事務職員	大 田 なぎ砂
事務職員	山 崎 智 夫

### 3. 地域連携センター活動状況

日時		運営会議・委員会等	行事・活動
4月	11日	第1回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	16日		ボランティアサークル説明会
	24日	第1回長久手市大学連携推進協議会連絡調整会議	
5月	7日		学術講演会「大河ドラマの舞台裏—史実と虚構が会う場所」
	8日		地域連携事業「北インド古典音楽への招待—ディヴィッド・トラソフ氏による講義と演奏会」
	13日	第1回公開講座企画運営委員会	
	16日	第1回長久手市大学連携推進協議会	
	23日	第2回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
6月	4日		長久手市商工会PC講習会、瀬戸商工会議所PC講習会
	13日	第3回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	20、23日		NCFオンキャンパスセミナー
	22日		OB・OG教員による公開講座「県大アゲイン」(第1回)
7月	5日		地域連携事業「東海社会学会大会 シンポジウム「震災と弱者」」
	6日		OB・OG教員による公開講座「県大アゲイン」(第2回)
	12日		愛・地球博記念公園と愛知県立大学との包括連携協定締結式、モリコロパーク夏まつり出展
	13日		OB・OG教員による公開講座「県大アゲイン」(第3回)
	17日		地域連携事業「インドネシア現地経済事情講習会」、東日本大震災復興支援ボランティア説明会
	18日	第4回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	20日		OB・OG教員による公開講座「県大アゲイン」(第4回)
26日		地域連携事業「大学で学ぶ文化人類学：フィールドワーク教育の試みと可能性」	
8月	3日		OB・OG教員による公開講座「県大アゲイン」(第5回)
	18~19日、21~22日		知の探究講座(前期)
	18~22日		地域連携事業「はじめてのインドネシア語講座」、「もっと知りたいインドネシア語講座」
9月	5日		名古屋市立大学との情報交換会
	18日	第5回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	

日時		運営会議・委員会等	行事・活動
10月	3日		学術講演会「スタジオジブリの30年—歴史と継承」
	4日		地域連携事業「愛知県立大学世界史セミナー第1回」(愛知県立大学・名古屋市立大学連携事業)
	8日		あいち地域づくり連携大学(第1回)
	7~11日		CEATEC JAPAN2014愛知県ブースへの出展(地域連携事業・産業界との連携事業)
	11日		地域連携事業「ディケンズ・フェロウシップ秋季大会」
	15日	第6回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	17日	第2回長久手市大学連携推進協議会	
	20日		地域連携事業「JICAボランティアセミナー～国際協力というシゴト～」
	21~22日		フロンティア21エレクトロニクスショー2014への出展
	22日		あいち地域づくり連携大学(第2回)
11月	8日		公開講座(第1回)、知の探究講座(後期)
	12日	第7回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	あいち地域づくり連携大学(第3回)、 地域連携事業「ACミランサッカースクール愛知による講演会」
	15日		公開講座(第2回)、知の探究講座(後期)
	26日		あいち地域づくり連携大学(第4回)
	29日		公開講座(第3回)、知の探究講座(後期)
12月	10日	第8回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	13日		公開講座(第4回)、知の探究講座(後期)
	16日	第2回公開講座企画運営委員会	
	20日		知の探究講座(後期)
	22日		地域連携事業「アメリカのろう文化・障害・文化・環境の多様性」
1月	7日		第1回APU情報セミナー
	10日		「知の探究講座」全体発表会、 NEXT COMMUNICATION AWARD 2014
	13~14日		地域連携事業「日本スペイン人文学セミナー」
	21日	第9回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	23日		地域連携事業「外国語学部 公開授業 ノーベル賞を受賞した「主婦」」 (愛知県立大学・名古屋市立大学連携事業)
	28日		愛知県地域づくり活動フォーラム
	29日	第2回長久手市大学連携推進協議会連絡調整会議	
	31日		地域連携事業「愛知県立大学世界史セミナー第2回」 地域連携事業「移民政策シンポジウム」

日時		運営会議・委員会等	行事・活動
2月	17日	第10回センター運営会議・産学連携推進室運営会議	
	24日		第2回APU情報セミナー
3月	2日		第3回APU情報セミナー
	2日、4～9日		瀬戸商工会議所パソコン講習会
	11日	第11回センター運営会議・産学連携推進室運営会議 第3回公開講座企画運営委員会	
	26日	第3回長久手市大学連携推進協議会	

## 4. 活動実績

### 【地域の課題解決を目指す】

#### (1) 自治体への委員推薦および講師派遣等に関するコーディネート実績

##### 《自治体への派遣》

###### ○長久手市

- ・長久手市暮らし文化部生涯学習課からの依頼により、「長久手市・愛知県立大学連携公民館講座」へ講師派遣を行った。

山村亜希准教授（日本文化学部歴史文化学科）

「地図から読み解く歴史～長久手の景観と戦国の城・町・道～」

（平成 27 年 3 月 7 日、14 日）

###### ○春日井市

- ・春日井市生涯学習課からの依頼により、「かすがい熟年大学」へ講師の派遣を行った。

上川通夫教授(日本文化学部歴史文化学科)

「日本中世社会の実像」(平成 26 年 11 月 5 日)

山村亜希准教授(日本文化学部歴史文化学科)

「地図から読む歴史」(平成 26 年 11 月 19 日、12 月 3 日)

松宮朝教授(教育福祉学部教育発達学科)

「孤独死・孤立死とコミュニティ」(平成 26 年 6 月 25 日)

###### ○小牧市

- ・小牧市まなび創造館からの依頼により、講師派遣のコーディネートを行った。

阿南東也准教授（外国語学部英米学科）

「アメリカ大統領とそれを取り巻く女性たち」

（平成 26 年 5 月 24 日、6 月 14 日、21 日、7 月 5 日、7 月 19 日）

###### ○みよし市

- ・みよし市小中学校教頭会からの依頼により、講師派遣のコーディネートを行った

望月彰教授（教育福祉学部教育発達学科）

「個別の支援の必要な児童生徒への教育的アプローチ」(平成 26 年 11 月 11 日)

##### 《カルチャーセンターへの派遣》

###### ○朝日カルチャーセンター

愛知県立大学では、大学での教育研究の成果を県民や社会に対して還元するとともに、高度な要望や知的欲求など県民の多様なニーズに対応するため、朝日カルチャーセンターと提携講座を開催している。

〈平成 26 年度提携講座〉

4 月～6 月

伊藤伸江教授(日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
久富木原玲教授(日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
	「ドイツとヨーロッパの歴史③」
日置雅子名誉教授	「カール大帝のフランク王国の解体～ドイツ・フランス王国の成立」
大脇由紀子非常勤講師	「『古事記』入門」
同上	「ゆったり古代神話の旅」
	「御食国(みけつくに) 若狭・食の原点を学ぶ」
山井徳行非常勤講師	「原書で読む名著～カミュ『異邦人』を読む」

7 月～9 月

伊藤伸江教授(日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
久富木原玲教授(日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
中根千絵教授(日本文化学部国語国文学科)	「古典の冒頭を読む」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
	「フランス詩珠玉の 3 篇」
林良児名誉教授	「—マラルメ、メーテルランク、アポリネール」
大脇由紀子非常勤講師	「『古事記』入門」
	「ゆったり古代神話の旅」
同上	「—神武東征伝説 物部氏ゆかりの地をいく」
	「磐船神社・石切劔箭神社」
山井徳行非常勤講師	「原書で読む名著～カミュ『異邦人』を読む」

10 月～12 月

伊藤伸江教授(日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
久富木原玲教授(日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
	「ドイツとヨーロッパの歴史」
日置雅子名誉教授	「—④神聖ローマ帝国の成立」
大脇由紀子非常勤講師	「『古事記』入門」
山井徳行非常勤講師	「原書で読む名著～カミュ『異邦人』を読む」

2015 年 1 月～3 月

伊藤伸江教授(日本文化学部国語国文学科)	「兼好法師のつれづれなる生活—中世文学の世界」
久富木原玲教授(日本文化学部国語国文学科)	「源氏物語の謎」
伊里松俊名誉教授	「アイルランド短編小説の魅力」
大脇由紀子非常勤講師	「『古事記』入門」

## ○その他地域連携コーディネート及び連携事業

- ・ あいち海上の森センター（人と自然の共生国際フォーラム実行委員就任）
- ・ 愛知県教育委員会（高大連携事業）
- ・ 愛知県建設部公園緑地課（愛・地球博記念公園との協定締結）
- ・ あいち産業科学技術総合センター（学生団体へのコーディネート）
- ・ 愛知県生涯学習推進センター（公開講座情報の提供）
- ・ 愛知県県民生活部社会活動推進課（北方領土ゼミナール参加学生の推薦）
- ・ 愛知県選挙管理委員会（連携事業検討）
- ・ 愛知県地域振興部地域政策課地域整備グループ（リニモ沿線地域づくり会議への協力）
- ・ 愛知県地域振興部地域政策課スポーツ事業振興調整グループ（事業参画に関する相談）
- ・ 愛知県陶磁美術館（パートナーシップ事業）
- ・ ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会（パートナーシップ事業実施）
- ・ 科学技術交流財団（知の拠点への事業協力）
- ・ JICA（講演会の実施）
- ・ 瀬戸商工会議所（パソコン講習会の実施）
- ・ 徳川美術館（大学メンバーシップへの参加）
- ・ 長久手市（大学連携推進協議会への参加、相互の事業の周知協力等）
- ・ 長久手市教育委員会（施設借用に関する相談）
- ・ 長久手市商工会（パソコン講習会の実施）
- ・ 名古屋市教育委員会生涯学習課（公開講座情報の提供）
- ・ 名古屋市立大学（中期計画、公開講座等に関する情報交換、連携事業の実施）
- ・ 名古屋城総合事務所（名古屋城本丸御殿学生おもてなしボランティア募集協力）
- ・ 豊田市（共催事業検討）

## (2)学生のボランティア活動への支援

### 愛知県立大学ボランティア情報の取扱いに関するガイドライン

愛知県立大学は、学生によるボランティア活動を、社会・地域貢献活動の重要な一分野であり、大学生が社会人として自立することを支援する活動であると位置付ける。そのため、公益性・公共性が高く、大学生が行う取組みとして有益で、学生に対する教育的配慮がある活動に関する情報を提供する。

従って、原則として情報を受け入れることができる団体の範囲、情報を取り扱うことができない活動は以下のとおりとする。以下の基準によっても判断できない場合は、地域連携センター運営会議が判断するものとする。

#### 1 情報を受入れることができる団体

- (1) 地方自治体
- (2) NPO法人
- (3) その他ボランティア活動を行う公共的団体

#### 2 情報を取扱いできない活動

- (1) 資格を要する活動
- (2) 営利を目的とする活動
- (3) 責任体制が明確でない活動
- (4) ボランティア活動に必要な保険に加入していない活動
- (5) 大学生が行なう取組みとして、不相当と判断される活動

以上

## 愛知県立大学学生ボランティア・ステーション運営要綱

### (趣旨)

第1 この要綱は、愛知県立大学に設置する愛知県立大学学生ボランティア・ステーション（以下、ボランティア・ステーションという。）の運営に関し必要な事項を定める。

### (目的)

第2 ボランティア・ステーションは、愛知県立大学学生（以下「学生」という。）によるボランティア活動の拠点として、学生と地域との連携を推進し、学生の地域貢献を支援すること、及び学生が主体的・能動的に企画・調整し行動する実践力を育成することを目的とする。

### (業務)

第3 ボランティア・ステーションは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域の機関と連携し、ボランティア活動に関する情報を収集し、学内へ発信すること
- (2) 地域ボランティア活動参加を希望する学生に対する相談と支援を行うこと
- (3) ボランティア活動に関する研修会等を企画・実施すること
- (4) ボランティア活動参加者又は参加団体の交流を行うこと
- (5) 災害時の支援を検討し実施すること
- (6) その他ボランティア活動に関すること

### (運営)

第4 ボランティア・ステーションの運営は、学生ボランティア委員会に委託する。

2 学生ボランティア委員会は、ボランティア・ステーションに設置した備品を管理する。

### (情報の取り扱い)

第5 ボランティア・ステーションは、ボランティア活動に関する情報を提供する。

2 提供する情報については、公益性・公共性が高く、大学生が行う取組みとして有益であり、学生の教育に資するものとする。

3 情報を受け入れることができる団体は、原則として次のとおりとする。

- (1) 地方公共団体
- (2) NPO法人
- (3) その他公共的活動を営む団体

4 情報を取り扱うことができない活動は、次のとおりとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) ボランティア活動に必要な保険に加入していない活動
- (3) 大学生が行なう取組みとして、不相当と判断される活動

5 その他ボランティア活動に関する情報の取り扱いについては、地域連携センター長が判断する。

### (庶務)

第6 ボランティア・ステーションの庶務は研究支援・地域連携課が所掌する。

### 附則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

## 平成 26 年度 ボランティア・ステーションの活動

### I. ボランティア説明会

1. 開催日時：平成 26 年 4 月 16 日（水） 12:00～13:00
2. 主催者：ボランティア・ステーション
3. 会場：長久手キャンパス H004 教室
4. 参加者数：一般と学生と教職員合わせて 89 名
5. 目的：ボランティアサークルへの活動紹介として開催

【会場の様子】



【発表の様子①】



【発表の様子②】



【発表の様子③】



### II. 東北への震災復興ボランティア説明会

1. 開催日時：平成 26 年 7 月 17 日（木） 12:00～13:00
2. 主催者：ボランティア・ステーション
3. 会場：長久手キャンパス H004 教室
4. 目的：東北への震災復興ボランティアの説明会  
(その間、ボランティア・ステーションでは東北フェアとして様々なチラシや情報誌を提供)

その他、ゴミプロジェクトなど様々な活動を実施。

## 【地域を支える人材の育成】

### (1) 学術講演会

平成 26 年度 学術講演会 実施結果①  
(日本文化学部「日本文化横断」プログラム提携企画)

1. 講演名：大河ドラマの舞台裏—史実と虚構が会う場所
2. 開催日時：平成 26 年 5 月 7 日（水） 12:50～14:20
3. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
4. 講師：屋敷 陽太郎 氏  
(日本放送協会 制作局 ドラマ番組部 チーフ・プロデューサー)
5. 聴講者数：一般と学生 約 360 名

【久富木原学部長挨拶】



【與那覇准教授講師紹介】



【講演の様子】



【質疑応答の様子】



平成 26 年度 学術講演会 実施結果②  
(日本文化学部「日本文化横断」プログラム提携企画)

1. 講演名：スタジオジブリの 30 年—歴史と継承
2. 開催日時：平成 26 年 10 月 3 日（金） 14:30～16:00
3. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
4. 講師：鈴木 敏夫 氏（株式会社スタジオジブリ代表取締役プロデューサー）
5. 聴講者数：一般 268 名、教職員 44 名、学生 559 名 計 871 名

【久富木原学部長挨拶】



【講演の様子】



【講演の様子】



【立錫の余地もない会場風景】



## (2) 公開講座

### 平成 26 年度 公開講座 実施結果

1. 講座名：歴史とフィクションのあいだ
2. 開催日時：第1回 11月 8日(土)、第2回 11月15日(土)  
第3回 11月29日(土)、第4回 12月13日(土)
3. 開催場所：長久手キャンパス S棟S101教室
4. 受講申込者：一般受講申込146名(修了証授与者51名)

#### <講座内容>

○第1回 受講者数144名(一般84名、学生60名)

テーマ	講師
キャラクターと戦後史 —ヒーローとロボットと美少女と	宇野 常寛 (評論家/批評誌「PLANETS」編集長)



○第2回 受講者数121名(一般62名、学生59名)

テーマ	講師
国文学者の見た『かぐや姫の物語』 —古典をリアルにする力	中根 千絵 (愛知県立大学日本文化学部 国語国文学科教授)



○第3回 受講者数 98名 (一般 62名、学生 36名)

テーマ	講師
現代美術の中の日本美術史 —村上隆、杉本博司、会田誠、山口晃、天明屋尚	橋本 麻里 (ライター・エディター/ 明治学院大学・立教大学非常勤講師)



○第4回 受講者数 85名 (一般 57名、学生 28名)

テーマ	講師
「特攻の町・知覧」の発明と固有性の喪失 —飛行場跡と護国神社の相克	福間 良明 (立命館大学産業社会学部 現代社会学科教授)



(3) OB 教員による講座「県大アゲイン」

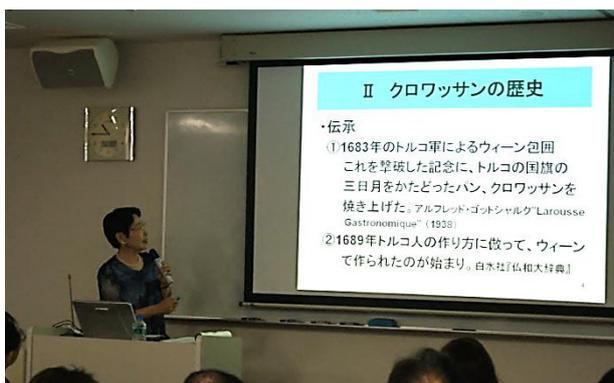
平成 26 年度 公開講座「県大アゲイン」 実施結果

1. 講座名：県大アゲイン「語源で語る諸科学の切り口」  
一言葉の意味・歴史から知識の世界を拓けようー
2. 日時：第1回 6月22日(日) 第2回 7月6日(日) 第3回 7月13日(日)  
第4回 7月20日(日) 第5回 8月3日(日) すべて10:30~12:00
3. 会場：愛知県立大学サテライトキャンパス(名古屋市中村区名駅 ウィンクあいち15階)
4. 参加者：申込数107名(うち一般91名、同窓会紹介16名) 修了証授与者45名(4回以上参加)

講座内容・講師名

○第1回：受講者数 78名

テーマ	講師
クロワッサンとトルコ行進曲 ～近代におけるトルコとヨーロッパ～	日置 雅子 氏 (外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻) 昭和47年11月から平成22年3月まで在職



○第2回：受講者数 56名

テーマ	講師
庇を貸して母屋を… —中世フランスの悪狐繁盛記	鈴木 覚 氏 (外国語学部フランス学科 現：同学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻) 昭和44年4月から平成15年3月まで在職



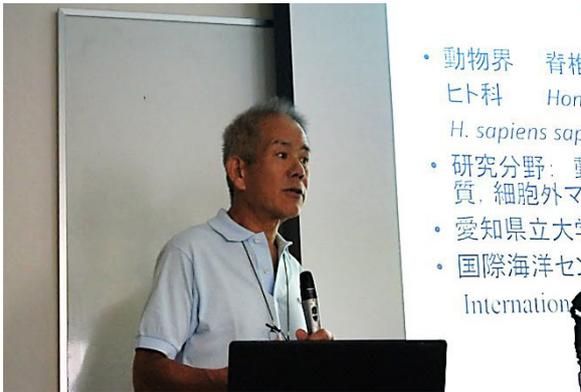
○第3回 : 受講者数 59名

テーマ	講師
『子どもの発達』とは何か —語源を通して考える—	加藤 義信 氏 (教育福祉学部教育発達学科) 平成12年4月から平成26年3月まで在職



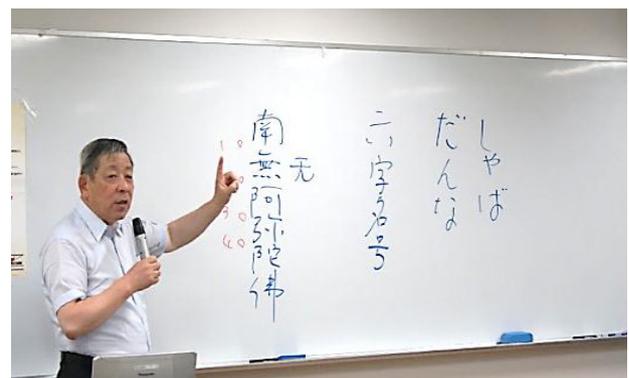
○第4回 : 受講者数 59名

テーマ	講師
生物の分類と命名—その用語から	横田 幸雄 氏 (情報科学部情報科学科) 昭和54年1月から平成24年3月まで在職



○第5回 : 受講者数 63名

テーマ	講師
「世界の言語」～その起源と拡がり～	佐藤 徳潤 氏 (外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻) 昭和49年4月から平成23年3月まで在職



#### (4) 地域連携事業

##### 平成 26 年度実施 地域連携事業リスト

NO.	事業名	事業種別	P 数
1	北インド古典音楽への招待 —デイヴィッド・トラソフ氏による講義と演奏会	協力	26
2	東海社会学会第7回シンポジウム「東日本大震災と社会的弱者-Part2」	共催	27
3	インドネシア現地経済事情講習会	主催	28
4	公開シンポジウム 「大学で学ぶ文化人類学：フィールドワーク教育の試みと可能性」	共催	29
5	はじめてのインドネシア語講座（初級）	主催	31
6	もっと知りたいインドネシア語講座（中級）	主催	32
7	愛知県立大学「世界史セミナー」第1回 「カトリック総本山、バチカンの秘密—教皇の歴史的交代劇をめぐる—」 (愛知県立大学・名古屋市立大学連携事業)	共催	33
8	CEATEC JAPAN 2014 愛知県ブースへの出展	共催	34
9	ディケンズ・フェロウシップ秋季大会	共催	37
10	JICA ボランティアセミナー～国際協力というシゴト～	主催	38

NO.	事業名	事業種別	P 数
11	愛知県立大学グローバル講演会 「世界へ飛び立つ若者たちへーAC ミランサッカースクール愛知に 学ぶグローバル人材育成ー」	共催	39
12	講演会「アメリカのろう文化：障害・文化・環境の多様性」	主催	40
13	日本スペイン人文学セミナー	主催	41
14	愛知県立大学外国語学部 公開授業 研究各論「イギリスの歴史」 「ノーベル賞を受賞した「主婦」」 (愛知県立大学・名古屋市立大学連携事業)	主催	43
15	愛知県立大学「世界史セミナー」第2回 「ヨーロッパ子ども史研究のこれまでとこれからーフランス史の事例を 中心にー」	共催	44
16	移民政策シンポジウム 「ニューカマーの大学進学ー進学格差の是正にむけてー」	共催	45

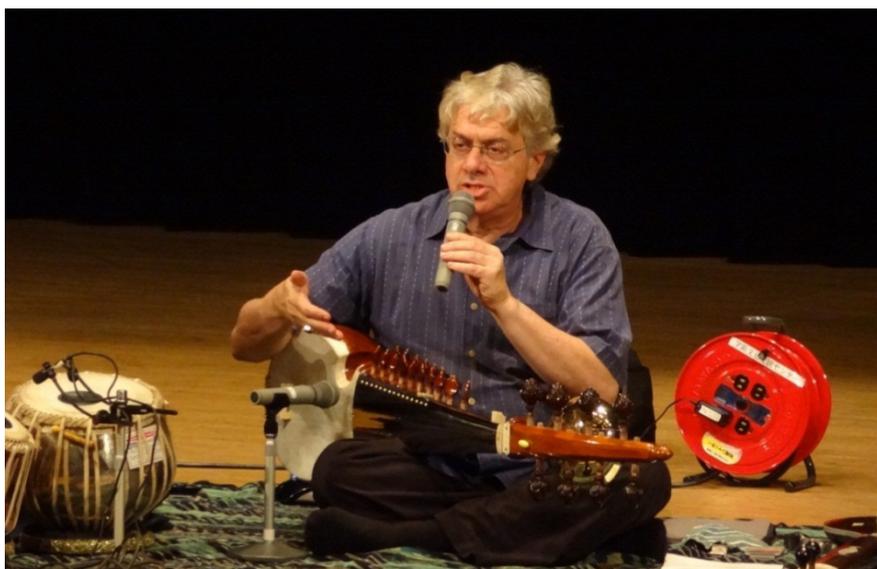
事業種別集計表

講座種別	今年度件数	昨年度件数	対前年度比
主催	8	6	+2
共催	7	12	-5
協力	1	5	-4
後援	0	0	±0
事業件数合計	16	23	-7

(単位：件)

平成 26 年度 地域連携事業 実施結果①

1. 事業名称：北インド古典音楽への招待  
ーデイヴィッド・トラソフ氏による講義と演奏会
2. 事業種別：協力
3. 申請者：杉山 三郎（愛知県立大学大学院国際文化研究科特任教授）
4. 主催者：愛知県立大学 多文化共生研究所
5. 開催日時：平成 26 年 5 月 8 日（火） 16：10～17：40
6. 会場：長久手キャンパス 講堂
7. 講師：デイヴィッド・トラソフ 氏（北インド民族音楽研究者・サロード演奏家）  
ユザーン（湯沢啓紀）氏（タブラ奏者）
8. 参加者数：約 105 名  
【デイヴィッド・トラソフ氏とユザーン氏の演奏と講演風景】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果②

1. 事業名称：東海社会学会第 7 回シンポジウム「東日本大震災と社会的弱者-Part2」
2. 事業種別：共催
3. 申請者：山本 かほり（愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科教授）
4. 主催者：東海社会学会
5. 開催日時：平成 26 年 7 月 5 日（土）13：30～16：30
6. 会場：長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
7. 講師：時岡 新 氏（金城学院大学）・山地 久美子 氏（大阪府立大学）・  
岩永 理恵 氏（神奈川保健医療大学）・渋谷 典子 氏（NPO 法人参画プラネット）・  
土屋 葉 氏（愛知大学）・丹下 厚史 氏（名古屋市国際センター）
8. 参加者数：約 80 名

### 【会場の風景】



### 【会場の風景】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果③

1. 事業名称：インドネシア現地経済事情講習会
2. 事業種別：主催
3. 申請者：小座野 八光（愛知県立大学外国語学部中国学科准教授）
4. 主催者：愛知県立大学 地域連携センター
5. 開催日時：平成 26 年 7 月 17 日（木）16：00～17：30
6. 会場：愛知産業振興機構セミナー室（愛知県産業労働センター18 階）
7. 講師：松井 和久（愛知県立大学多文化共生研究所客員共同研究員）
8. 参加者数：約 40 名

【講演中の松井先生】



【会場の風景】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果④

### 1. 事業名称：公開シンポジウム

「大学で学ぶ文化人類学：フィールドワーク教育の試みと可能性」

### 2. 事業種別：共催

3. 申請者：亀井 伸孝（愛知県立大学外国語学部国際関係学科准教授）

4. 主催者：日本文化人類学会

5. 開催日時：平成 26 年 7 月 26 日（土）13：30～16：55

6. 会場：愛知県産業労働センターウインクあいち 10 階大会議室 1001

7. 講師：赤嶺 淳氏（一橋大学）・亀井 伸孝（愛知県立大学）

南出 和余氏（桃山学院大学）・内藤 直樹氏（徳島大学）

竹川 大介氏（北九州市立大学）・松田 凡氏（京都文教大学）

和崎 春日氏（中部大学）※コメント

8. 参加者数：約 120 人（関東、中部、北陸、近畿、四国、九州の各地から来場）

### 9. 開催の様子：

大学におけるフィールドワーク教育のテーマは、大いに関心を集め、熱気あふれる会場となった。質疑応答の時間を節約するために質問票を配布し、来場者が記入して質問できるようにした。推定 100 枚ほどの質問票が会場から寄せられた。

会場では、本学のフィールドワーク教育の実践事例紹介を兼ねて、国際関係学科の「旅の写真展」を同時開催した。休憩時間に、学生たちの写真作品を鑑賞する人びとの姿があった。

公開行事という趣旨に鑑みて、手話通訳を配置した。名身連聴覚言語障害者情報文化センターから 3 名×4 時間の手話通訳者の派遣を受け、経費は計 30,000 円＋交通費実費であった（日本文化人類学会の会計から支出）。県下の全高校に案内状を送る際に、県立ろう学校も含めて送った立場上、バリアフリー対策は必要であると判断した。結果として、ろう者 5 人が参加した。「情報保障をありがとうございました」「手話通訳付の企画があれば参加したい」といった反響があり、公開行事における潜在的なニーズがあることが明らかになった。

### ■提出された感想など（抜粋）

【関東、大学院生】学びに直結したフィールドワークの事例がうかがえて、率直におもしろかったです。

【中部、社会人】手話通訳付の企画（文化人類）があれば参加したい。

【中部、大学教員】フィールドワークのおもしろさを再認識させていただきました。

【中部、大学職員】それぞれの先生がたのご経験をもとにされたご発表で、非常に興味深く拝聴しました。

【関東、大学院生】聞き書き、写真、映像を用いた調査のお話をうかがい、大変参考になりました。

【関東、大学教員】学生をどう外向きにしてゆくか、というのが目下の課題ですので、関心があります。

【関東、学校教員】情報保障をありがとうございました。大変よい機会となりました。

【関東、大学、中学校などにおける非常勤講師】ダイナミックな試みに多数触れることができてよかったです。中高生向けにどんなフィールドワーク教育の可能性があるかを考えたいです。

【中部、大学院生】先生がたの語り方がおもしろく、楽しい時間となりました。

【九州、大学教員】続編よろしくお祈いします。

【中部、大学教員】ワークショップのような体験型のイベントなど、希望します。

【北陸、大学教員】もっと総合討論する時間があつたら、よかったです。

【近畿、大学教員】私自身も PBL 科目を担当しており、いろいろ示唆をいただきました。

【北陸、大学教員】[今後、どのような企画があるとよいか] 人類学の教員のための映像人類学ワークショップ的なもの。

【主催者あいさつ（日本文化人類学会総務理事）】

【パネリストの発表】



【総合討論】

【愛知県立大学国際関係学科「旅の写真展」】



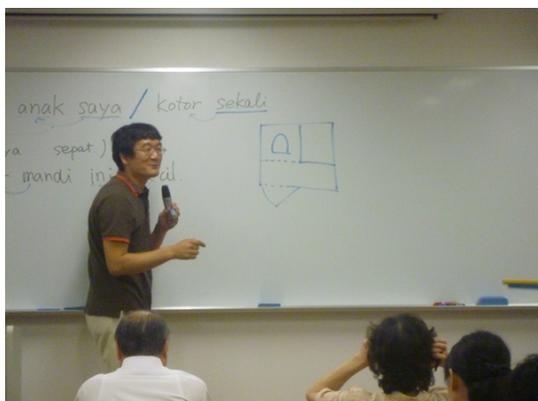
## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑤

1. 事業名称：「はじめてのインドネシア語」講座（初級）
2. 事業種別：主催
3. 申請者：小座野 八光（愛知県立大学外国語学部中国学科准教授）
4. 主催者：愛知県立大学 地域連携センター
5. 開催日時：平成 26 年 8 月 18 日（月）～22 日（金） 全 5 回 18：00～19：30
6. 会場：愛知県立大学サテライトキャンパス  
（愛知県産業労働センターウインクあいち 15 階）
6. 講師：高地 薫（愛知県立大学多文化共生研究所客員共同研究員）
7. 参加者数：38 名

【講座の様子】



【講座の様子】



【修了証の授与】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑥

1. 事業名称：「もっと知りたいインドネシア語」講座（中級）
2. 事業種別：主催
3. 申請者：小座野 八光（愛知県立大学外国語学部中国学科准教授）
4. 主催者：愛知県立大学 地域連携センター
5. 開催日時：平成 26 年 8 月 18 日（月）～22 日（金） 全 5 回 19：45～21：15
6. 会場：愛知県立大学サテライトキャンパス  
（愛知県産業労働センターウインクあいち 15 階）
7. 講師：高地 薫（愛知県立大学多文化共生研究所客員共同研究員）
8. 参加者数：20 名

【講座の様子】



【講座の様子】



【修了証の授与】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑦

1. 事業名称：愛知県立大学「世界史セミナー」第 1 回  
カトリック総本山、バチカンの秘密—教皇の歴史的交代劇をめぐって—  
(愛知県立大学・名古屋市立大学連携事業)
2. 事業種別：主催
3. 申請者：大野 誠 (愛知県立大学外国語学部英米学科教授)
4. 主催者：愛知県立大学世界史研究会、地域連携センター  
(特別協力：名古屋市立大学)
5. 開催日時：平成 26 年 10 月 4 日 (土) 16:00~18:00
6. 会場：愛知県立大学サテライトキャンパス  
(愛知県産業労働センターウインクあいち 15 階)
7. 講師：松本 佐保 氏 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授)
8. 参加者数：72 名

【講師および著作紹介】



【会場の様子】



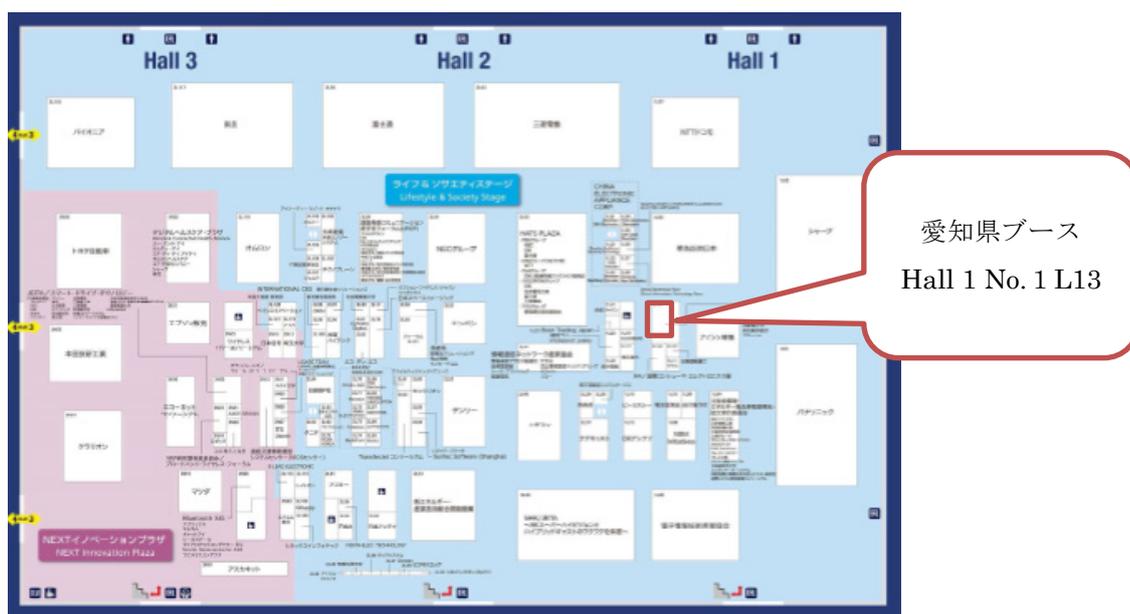
【講演の様子】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑧

1. 事業名称：CEATEC JAPAN 2014 愛知県ブースへの出展
2. 事業種別：共催
3. 申請者：小栗 宏次（愛知県立大学情報科学部情報科学科教授）
4. 主催者：CEATEC JAPAN 実施協議会
5. 開催日時：平成 26 年 10 月 7 日（火）～11 日（土） 16:00～17:00
6. 会場：幕張メッセ（千葉市美浜区中瀬 2-1）
7. 出展ブース：ライフ&ソサエティステージ ブース No. 1L13
8. 来場者数：15 万 912 人
9. 概要：

CEATEC JAPAN は、2000 年の開催より世界に向けて IT・エレクトロニクス先進技術の成果を発信し、明日の社会・生活・産業に向け、先進技術を基とした「次」の製品、サービス、コンテンツを提案するアジア最大級の IT・エレクトロニクスの見本市。



展示場所（赤枠のブースが愛知県ブース）



愛知県ブースの全景（正面から左側）



愛知県ブースの全景（正面から右側）



愛知県立大学の展示状況

愛知県立大学情報科学共同研究所の展示内容

- ① パネルによる研究内容の紹介
- ② デモンストレーション（路面標示状態推定デモ、スマートデバイスを用いたウェアラブル血圧推定デモ）
- ③ 動画およびシミュレーションによる計測車両を用いた路面標示状態の推定についての紹介

ブース内での対応は、小栗研究室の学生が3名体制で行った。

	月 (10/6)	火 (10/7)	水 (10/8)	木 (10/9)	金 (10/10)	土 (10/11)
学生		3	3	3	3	3
教職員	2	1				1



ブース正面のプロジェクター

- ④ ブース正面での各出展者の動画による紹介  
 アイサンテクノロジー株式会社、愛知県立大学情報科学共同研究所  
 AZAPA株式会社、株式会社加藤製作所  
 原田車両設計株式会社、株式会社プロツア

## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑨

1. 事業名称：ディケンズ・フェロウシップ 秋季大会
2. 事業種別：共催
3. 申請者：榎本 洋（愛知県立大学外国語学部英米学科准教授）
4. 主催者：ディケンズ・フェロウシップ日本支部
5. 開催日時：平成 26 年 10 月 11 日（土） 12:30～17:30
6. 開催場所：長久手キャンパス 学術文化交流センター 小ホール
7. 講師：中村 隆 氏（山形大学教授）  
中妻 結 氏（東京女子大学非常勤講師）  
橋野 朋子 氏（関西外国語大学講師）  
新井 潤美 氏（上智大学教授）  
鳥取 猛志 氏（筑波大学 リサーチ・アドミニストレーター）  
鵜飼 信光 氏（九州大学教授）
8. 聴講者数：一般と学生合わせて約 50 名

### 【講演の様子】



### 【講演の様子】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑩

1. 事業名称：JICA ボランティアセミナー
2. 事業種別：主催
3. 申請者：亀井 伸孝（愛知県立大学外国語学部国際関係学科准教授）
4. 開催日時：平成 26 年 10 月 20 日（月） 14:30～16:00
5. 開催場所：長久手キャンパス 講堂
6. 講師：蒲 美幸 氏（青年海外協力協会 中部支部 ボランティア事業担当）  
向井 昌紀 氏（派遣国：サモア、主な活動：理数科教師）
7. 聴講者数：一般と学生合わせて 235 名

### 【講演の様子】



### 【講演の様子】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑪

1. 事業名称：グローバル講演会  
「世界へ飛び立つ若者たちへ  
ーAC ミランサッカースクール愛知に学ぶグローバル人材育成ー」
2. 事業種別：共催
3. 申請者：吉池 孝一（愛知県立大学外国語学部中国学科教授）
4. 開催日時：平成 26 年 11 月 12 日（月） 13:00~13:50 / 14:30~16:00
5. 開催場所：長久手キャンパス iCoToBa / S 棟 102 号室
6. 講師：マテオ・コント氏（AC ミランサッカースクール愛知テクニカルディレクター）  
山田 晃裕氏（AC ミランサッカースクール愛知 コーディネータ）
7. 聴講者数：一般と学生合わせて 105 名

AC ミランサッカースクール愛知でテクニカルディレクターを務めるマテオ・コント氏を迎え、「世界へ飛び立つ若者たちへーAC ミランサッカースクール愛知に学ぶグローバル人材育成ー」というタイトルで講演会を開催した。講演会に先立ち、本学外国語学部学生 7 名が、コント氏と通訳兼コーディネータの山田晃裕氏（本学スペイン語学科卒業生）と共に、「グローバルに活躍するために私たちはどう生きるべきか」をテーマに座談会を行なった。

講演会では、AC ミランサッカースクールが目指している人材育成と、イタリア、クウェート、日本でのサッカー指導でコント氏が経験した異文化経験と、新しい世界にチャレンジすることのやりがいや楽しさについて、またご自身のエピソードを基に「CORAGGIO（勇気）」と「DIVERSITA（ちがい）」の重要性について熱く語ってくださった。コント氏の講演の後は、座談会に参加した学生の代表 3 名が報告を行なった。その中の一人は、座談会で印象的だったエピソードとして、コント氏が紹介したチョコレートケーキのたとえ話（両手にケーキがある。おいしいかまずいか、食べてみるまでは分からない。まずかったら、食べるのをやめればいい。食べきる義務はない。1つ食べておいしかったら、もう1つ食べてもいい。）を例に、挑戦と試行錯誤を繰り返すことで「自分の強さを出せる場所を見つけられる」というメッセージを受け取ったと報告した。

### 【講演の様子】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑫

1. 事業名称：講演会「アメリカのろう文化：障害・文化・環境の多様性」
2. 事業種別：主催
3. 申請者：亀井 伸孝（愛知県立大学外国語学部国際関係学科准教授）
4. 共催：愛知県立大学 教養教育センター
5. 開催日時：平成 26 年 12 月 22 日（月） 14:30～16:00
6. 会場：長久手キャンパス 講堂
7. 講師：武田 太一 氏（聴覚・ろう重複センターつくし生活指導員）
8. 聴講者数：一般と学生合わせて 225 名

【亀井先生挨拶】



【講演の様子】



【武田 太一 氏講演】



平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑬

1. 事業名称：日本スペイン人文学セミナー  
イノベーターとしての人文学—ダイナミックな人間社会を求めて—
2. 事業種別：主催
3. 申請者：上川 通夫（愛知県立大学日本文化学部歴史文化学科教授）
4. 主催：愛知県立大学、マドリッド国際政治学研究所
5. 開催日時：平成 27 年 1 月 13 日（火） 10:30～17:00  
平成 27 年 1 月 14 日（水） 10:00～12:00
6. 会場：長久手キャンパス 講堂
7. 講師：  
【愛知県立大学】  
外国語学部 ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻  
堀田 英夫・糸魚川 美樹  
日本文化学部 国語国文学科  
久富木原 玲・三宅 宏幸・久保菌 愛  
日本文化学部 歴史文化学科  
大塚 英二・上川 通夫・川畑 博昭・山村 亜希  
愛知県立大学 大学院  
服部 光真  
【マドリッド国際政治学研究所・スペインアルカラ大学・CEU サンパブロ大学及び学外者】  
ホセ・マヌエル・ペドロサ氏  
アナ・イサベル・ガルシア・テソロ氏  
カルロス・ペレス・フェルナンドス・トゥレガノ氏  
パブロ・ガリエゴ・ロドリゲス氏  
東 満理亜氏（茨城市立キリシタン遺物資料館）
8. 聴講者数：一般、学生及び教職員合わせて  
13 日 435 名 14 日 511 名

【高島学長開会の辞】



【マドリッド国際政治学研究所趣旨説明】



【堀田先生基調講演】



【ゲストスピーカー東氏講演】



【講師陣集合写真】



【笹津理事長を囲んで】



平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑭

1. 事業名称：愛知県立大学 外国語学部公開授業 研究各論「イギリスの歴史」  
ノーベル賞を受賞した「主婦」(愛知県立大学・名古屋市立大学連携事業)
2. 事業種別：主催
3. 申請者：大野 誠 (愛知県立大学外国語学部英米学科教授)
4. 主催者：地域連携センター (特別協力：名古屋市立大学)
5. 開催日時：平成 27 年 1 月 23 日 (金) 10:30~12:00
6. 会場：愛知県立大学長久手キャンパス S101 教室
7. 講師：奥田 伸子 氏 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科教授)
8. 参加者数：一般と学生合わせて 165 名

【講師紹介】



【講演の様子】



【講演の様子】



## 平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑮

1. 事業名称：愛知県立大学「世界史セミナー」第 2 回  
「ヨーロッパ子ども史研究のこれまでとこれから—フランス史の事例を中心に—」
2. 事業種別：共催
3. 申請者：大野 誠（愛知県立大学外国語学部英米学科教授）
4. 主催者：愛知県立大学世界史研究会
5. 開催日時：平成 27 年 1 月 31 日（土） 16:00～18:00
6. 会場：愛知県立大学名駅サテライトキャンパス
7. 講師：天野 知恵子  
(愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻教授)
8. 参加者数：一般および高校教員合わせて 37 名

### 【講演の様子】



### 【質疑応答の様子】



平成 26 年度 地域連携事業 実施結果⑯

1. 事業名称：移民政策シンポジウム

「ニューカマーの大学進学－進学格差の是正にむけて－」

2. 事業種別：共催

3. 申請者：松宮 朝（愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科准教授）

4. 主催者：移住労働者と連帯する全国ネットワーク、愛知県立大学多文化共生研究会

5. 開催日時：平成 27 年 1 月 31 日（土）13：30～16：30

6. 会場：愛知県立大学長久手キャンパス S101 教室

7. 講師：鍛冶 到 氏（大阪成蹊大学マネジメント学部准教授）

川口 祐有子 氏（まなびやきゅうばん）

東 弘子（愛知県立大学外国語学部国際関係学科教授）

金城ナヤラナツミ氏（金城学院大学大学院）

キルカットイエフリ（愛知県立大学学生）

8. 参加者数：82 名

【講演の様子】



【講演の様子】



## (5) 高大連携事業

### 平成 26 年度 高大連携事業 実施結果①

#### 「知の探究講座」

(県教委事業、情報科学部公開講座)

講座名：「プログラミングの扉を開く」

会 場：長久手キャンパスC棟 演習室

参加者：31 名（県内高校からの希望者）

#### 実施日程および内容

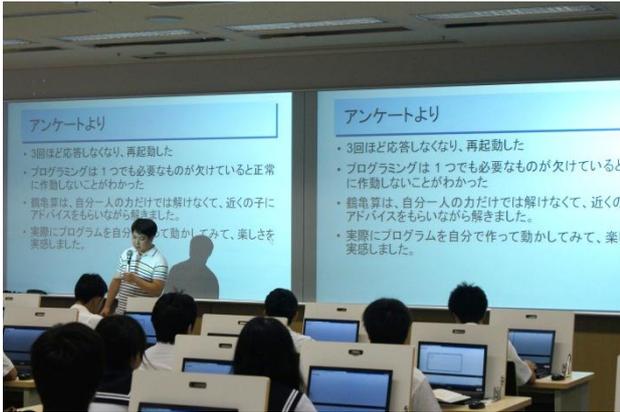
	実施日	担当教員	講座内容
第 1 回	8 月 18 日 (月)	大久保 弘崇 講師	① 準備 ② はじめの一步
第 2 回	8 月 19 日 (火)	大久保 弘崇 講師	③ 命令型プログラミング言語
第 3 回	8 月 21 日 (水)	作村 諭一 准教授 伊藤 正英 助教	④ オブジェクト指向プログラミング ⑤ enchant.js の基礎
第 4 回	8 月 22 日 (木)	大久保 弘崇 講師 伊藤 正英 助教	⑥ アルゴリズムとデータ構造 ⑦ enchant.js の基礎の続き
第 5 回	11 月 8 日 (金)	粕谷 英人 講師	⑧ 第 1 期の復習 ⑨ グループ課題 1
第 6 回	11 月 15 日 (土)	大久保 弘崇 講師	⑩ グループ課題 1 の発表 ⑪ グループ課題 2
第 7 回	12 月 13 日 (土)	入部 百合絵 助教	⑫ グループ発表に向けての仕上げ作業
第 8 回	12 月 20 日 (土)	河中 治樹 准教授	⑬ グループ発表

※時間は各日とも 10:00～17:00

#### 〈第 1 回〉



〈第2回〉



〈第3回〉



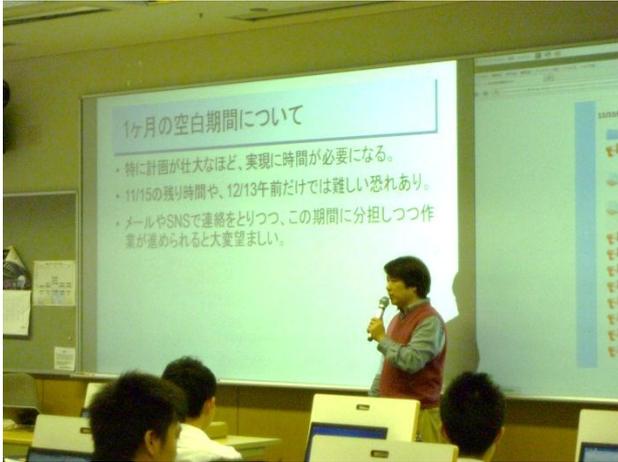
〈第4回〉



〈第5回〉



〈第6回〉



〈第7回〉



〈第8回 グループ別発表会〉



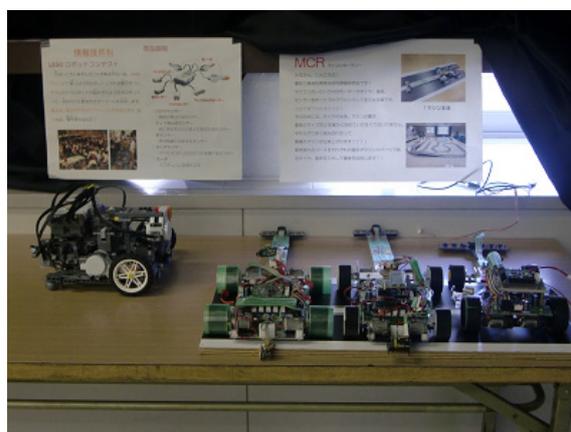
## 平成 26 年度 高大連携事業 実施結果

1. 事業名称：愛知工業高校 情報技術科 課題研究発表会
2. 主催者：愛知工業高校 情報技術科
3. 開催日時：平成 27 年 1 月 23 日（金） 13:25～15:15
4. 会場：愛知工業高校 視聴覚室
5. 講師：河中 治樹（愛知県立大学情報科学部情報科学科准教授）  
伊藤 正英（愛知県立大学情報科学部情報科学科助教）
6. 対象：愛知工業高校 情報技術科 3 年、2 年、関係教職員
7. 概要：愛知工業高校の依頼により、3 年生の課題研究発表会に本学教員 2 名が出席。  
1 年を通じて学んだことを 6 チームに分かれ発表し、本学教員がコメントーターとして、生徒の研究発表を講評した。  
(次 第)  
1.ウェブデザイン→2.資格取得 →3.LEGO&マイコンカーの製作→  
4.ソフトウェア開発→5.玉入れ競技ロボットの製作→6.エレベータ装置の開発

【会場の様子】



【生徒の作品】



【講評の様子】



## (6) あいち地域づくり連携大学

### 「あいち地域づくり連携大学」 実施結果 (愛知県地域振興部との共催)

#### 1. 開催日及び各回テーマ

	開催日	テーマ
第1回	10月8日(水)	若者はなぜ地域づくりに参加しない？ミスマッチの原因は？
第2回	10月22日(水)	地域活性化のために、若者がやりたいこと、できること！
第3回	11月12日(水)	若者と地域の連携による地域活性化プロジェクトを創造！
第4回	11月26日(水)	若者パワーによる地域活性化作戦 大発表会！

2. 会場 第1回、第2回：北名古屋市役所西庁舎4階大会議室

第3回、第4回：名古屋芸術大学西キャンパス

3. 参加者数 第1回：37名 第2回：33名 第3回：33名 第4回：30名

#### 4. 事業概要

柔軟な発想や行動力をもった大学生などの『若者』と、担い手不足や高齢化等で悩む『地域住民』で協働し、まちづくりの担い手として参画することの意義や可能性、課題、具体的な連携アイデアについて、ワークショップによる参加型のプログラムを通じて実践的に考える。今年度は、地域自治組織の立ち上げなど積極的な地域自治を推し進めている「北名古屋市」を題材に、北名古屋市役所および名古屋芸術大学において、全4回実施した。

#### 5. 事業の様子

【第1回】



【第2回】



【第3回】



【第4回】



## (7) 愛知県地域づくり活動フォーラム

### 「愛知県地域づくり活動フォーラム」 実施結果 (愛知県地域振興部との共催)

1. 開催日時：平成 27 年 1 月 28 日（水） 14:00～16:30
2. 会 場：長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
3. 参加者数：約 100 名
4. 当日のプログラム：
  - ①平成 26 年度愛知県地域づくり活動表彰式及び事例発表（2 団体）  
「豊川稲荷表参道発展会（豊川市）」、「八幡コミュニティ（知多市）」
  - ②愛知県立大学 学生グループ「DoNabe Net in あいち」による活動報告  
・テーマ「人と人をつなげる鍋パーティ」  
・発表者 野村 こはる（愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科 4 年）  
安井 早紀（愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科 4 年）
  - ③講演「公務員が元気なら、地域は絶対元気になる」  
～人と人、人と地域をつなげたい～  
講師：山田 崇氏  
(長野県塩尻商工会議所職員 地域に飛び出す公務員アワード 2013 受賞)
5. 会場の様子

【活動表彰式】



【学生グループによる活動報告】



【事例発表】



【山田 崇氏講演】



## 【地域の多様な団体との連携】

### (1) 愛・地球博記念公園との包括連携協定締結

#### 愛・地球博記念公園との包括連携協定締結について

今までいろいろなところと協定を締結してきましたが、公園とは初めての協定になります。

本学と愛・地球博記念公園とは、今まで、それぞれの学部や研究所個々で事業を行ってきましたが、より組織的なつながりの強化を目指してこの度協定を締結致しました。

今後は、来年度（平成27年9月12日（土）～11月8日（日））に行われる、「第32回全国都市緑化フェア」などイベントを通して協力していく予定です。

#### 【協定締結後の握手】



左から、公益財団法人 愛知県都市整備協会  
理事長 川崎 昭弘様  
中心が、愛知県尾張建設事務所  
所長 広浜 全洋様  
右側が、本学学長 高島 忠義

#### 【旅の写真展準備】



#### 【協定書】



#### 【ゲルの中でモンゴル民族衣装の体験】



#### 【情報科学部 ロボット展示】



## (2) 長久手市大学連携推進協議会への参加

### 長久手市大学連携推進協議会への参加について

長久手市と市内 4 大学（愛知県立芸術大学、愛知医科大学、愛知淑徳大学、愛知県立大学）は、まちづくりにおいて、大学が有する知的資源や特色を活かし、学術研究の場や機会を大学に提供するなど、相互の発展や充実に向けて組織的な連携を深めることにより、「人が輝き 緑があふれる 交流都市」としてふさわしい地域社会づくりに資することを目的として、平成 24 年 12 月 20 日に長久手市大学連携推進協議会を設置しました。

本協議会の主旨に基づき、平成 26 年度は以下の事業を実施いたしました。

#### ○協議会連絡調整会議の開催（課長級により組織）

第 1 回 平成 26 年 4 月 24 日（木） 第 2 回 平成 27 年 1 月 29 日（木）

#### ○協議会の開催（部長級により組織）

第 1 回 平成 26 年 5 月 16 日（金） 第 2 回 平成 26 年 10 月 17 日（金）  
第 3 回 平成 27 年 3 月 26 日（木）

#### ○市長秘書インターンシップ

市長の秘書業務を通じて、市の実情や市政運営への理解促進、通学する地域への愛着を育むとともに、将来に向けた職業観の醸成と社会体験を目的として、市内 4 大学より募集。

多数の応募の中から、本学より 1 名が採用され、1 週間のインターンシップに参加した。

#### ○相互の企画事業の周知協力

#### ○その他関係各課からの依頼の窓口業務

（男女共同参画冊子「自分らしく」の学生に対する作成協力依頼、地域活動の学生ボランティア募集依頼など）

### (3) 産業界との連携事業

#### 長久手市商工会パソコン講習会実施結果

(長久手市商工会との共催)

1. 開催日時：平成26年6月4日（水） 16:10～17:40
2. 会場：長久手キャンパス情報科学部棟コンピュータ演習室6
3. 参加者：長久手市内の小規模事業者4名
4. 目的：小規模事業者のレベルアップを図るため、パソコン講習会を実施
5. 講師及び内容

講師：愛知県立大学情報科学部学部生（PBL（授業）として実施）

エクセルコース

パワーポイントコース

ワードコース

6. 会場の様子

【開講式&閉講式】



【講習風景】



【講習風景】



【講習風景】



## 瀬戸商工会議所パソコン講習会実施結果

(瀬戸商工会議所との共催)

1. 開催日時：平成 26 年 6 月 4 日（水）14:30～16:00
2. 会 場：長久手キャンパス情報科学部棟コンピュータ演習室 6
3. 参 加 者：瀬戸市内の小規模事業者 10 名
4. 目 的：小規模事業者のレベルアップを図るため、パソコン講習会を実施
5. 講師及び内容

講師：愛知県立大学情報科学部学部生（PBL（授業）として実施）

エクセルコース

パワーポイントコース

ワードコース

6. 会場の様子

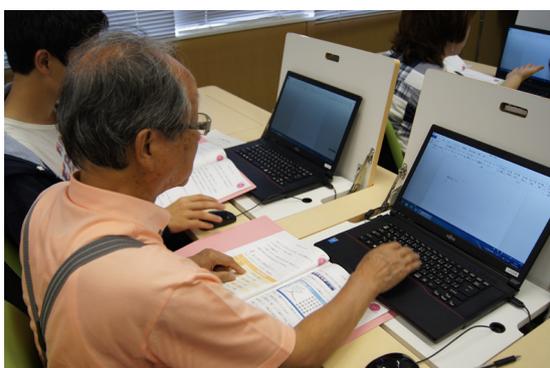
【開講式】



【講習風景】



【講習風景】



【講習風景】



## フロンティア 21 エレクトロニクスショー2014 出展報告

1. 開催日時：平成 26 年 10 月 21 日(火)・22 日(水) [2 日間] 10:00～17:00
2. 会 場：名古屋国際会議場 4 号館 1 階白鳥ホール
3. 出展規模：32 企業・大学・機関 45 小間
4. 来場者数：  
10 月 21 日 (火) 621 名 (展示会 233 名・セミナー 388 名)  
10 月 22 日 (水) 914 名 (展示会 427 名・セミナー 487 名)  
合計 1,535 名 (展示会 660 名・セミナー 875 名)



【フロンティア 21 エレクトロニクスショーの大学ブースの出店状況】



情報科学共同研究所ブースでの状況

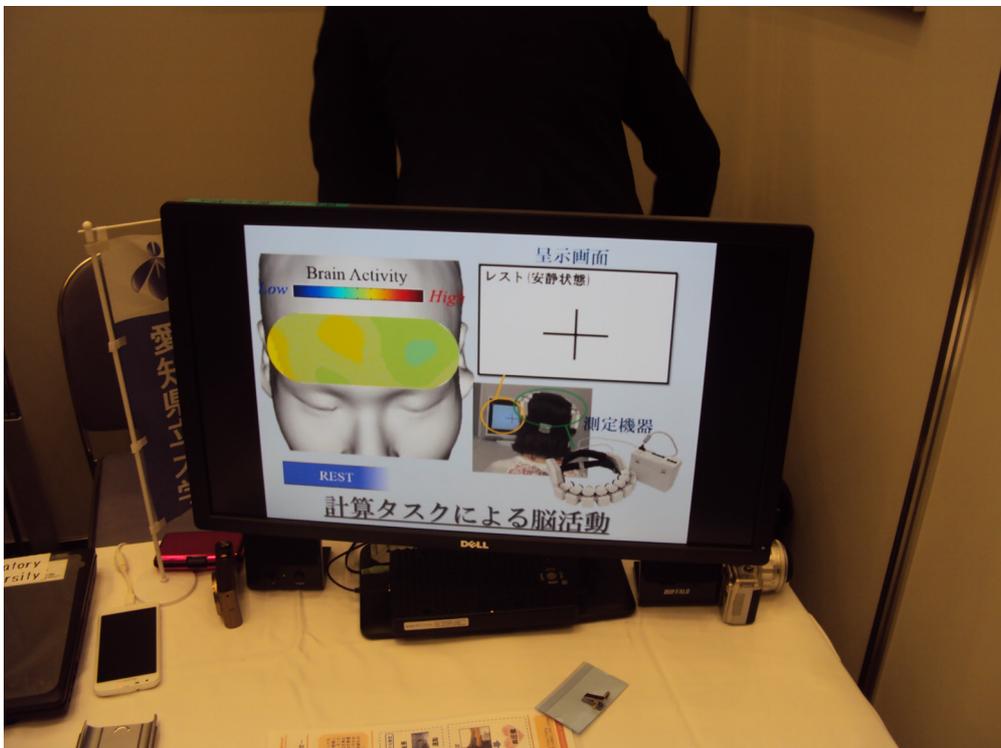


情報科学共同研究所ブースでの状況

研究所ブースでの説明は、小栗研究室の学生が対応しました。



出展物 1 (路面標示状態測定デモ)



出展物 2 (動画による説明、スマートフォンを用いた血圧推定デモ)

## 第 1 回 APU 情報セミナー報告

1. 開催日時：平成 27 年 1 月 7 日（水） 10:00～11:30
2. 会 場：長久手キャンパス C 棟 1 階会議室（C107）
3. 講 師：申 ウソク 氏  
(産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門 研究グループ長)
4. 参加者数：14 名（学生 9 名、教職員 5 名）

【演題】ガスセンシング機器開発による生体ガスと病の関連解明

【要旨】愛知県知の拠点プロジェクト「超早期診断技術開発プロジェクト」においてガスセンサデバイスを用いた医工連携による臨床研究を進めています。

熱電式センサでは腸内の状態との関連が指摘されている水素及びメタンの検知に向けたセンサデバイスの開発と臨床実験を進めています。半導体式センサでは、センサ素子を含むシステム開発を進めながら、肺癌マーカーを明確にするため、肺癌の患者からご協力を得て呼気を提供して頂き、ガスマスによる精密分析を実施しています。



作村先生



申先生



申先生



申先生

世話人：作村諭一（愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 准教授）

情報科学共同研究所所長小栗教授の開会の挨拶の後、知の拠点重点研究プロジェクトに参加している作村准教授より、研究の概要について 30 分のミニレクチャがあり、その後、講師の申先生より講演があった。大学院生を中心に 9 名の学生と 5 名の教職員、計 14 名の参加があった。

## 第2回 APU情報セミナー報告

1. 開催日時：平成27年2月24日（火） 10:00～11:30
2. 会場：長久手キャンパス C棟1階会議室（C107）
3. 参加者数：18名（学生 14名、教職員 4名）

情報科学共同研究所所長小栗教授の開会の挨拶の後、最初に金森等先生より名古屋 COI でのモビリティ研究に関する講演があり、その後、講師の青木宏文先生より高齢ドライバーの人間特性調査に関する講演があった。14名の学生と4名の教職員、計18名の参加があった。講演の後には、30分程度の質疑の時間をとり、数名の学生と教員から質問があり、有意義な時間であった。

【講師】：金森 等 氏（名古屋大学未来社会創造機構教授）

【演題】：名古屋 COIにおける活き活き高齢者のための運転特性研究

【概要】：はじめに名古屋 COIでのモビリティ研究活動の全体状況をご紹介します。続いて、高齢者が安全に安心して運転が続けられるための目標設定と実現のための研究内容などについて触れる。

【講師】：青木 宏文 氏（名古屋大学未来社会創造機構教授）

【演題】：「高齢ドライバーの人間特性調査～運転寿命延伸を目指して～」

【概要】：高齢ドライバーが安全に、安心して運転を続けられる期間、すなわち「運転寿命」をできるだけ長くするには、どのような身体的・認知的能力が必要なのでしょうか？その問いに答えるため、名古屋 COIでは高齢ドライバーの方々を対象に調査をはじめています。今回は、100名分のデータ取得状況の概要をご紹介します。

【開会の挨拶（小栗先生）】

【金森先生のご講演】



【青木先生のご講演】



【集合写真（講師および参加者）】



### 第3回 APU情報セミナー報告

1. 開催日時：平成27年3月2日（水） 14:00～15:00
2. 会場：長久手キャンパス C棟1階会議室（C107）
3. 講師：玉置 章文 氏(トヨタ自動車パートナーロボット部部長)
4. 参加者数：34名(学生 24名、教職員 10名)

【演題】すべての人に移動の自由を ～トヨタパートナーロボット開発の状況～

【要旨】トヨタは、これからの高齢化社会の中でのあらゆるシーンで『移動の自由』を提供すべく、人共存ロボット開発を進めている。現場でのニーズに密着した開発をすすめる。現状と今後の展望について述べる。

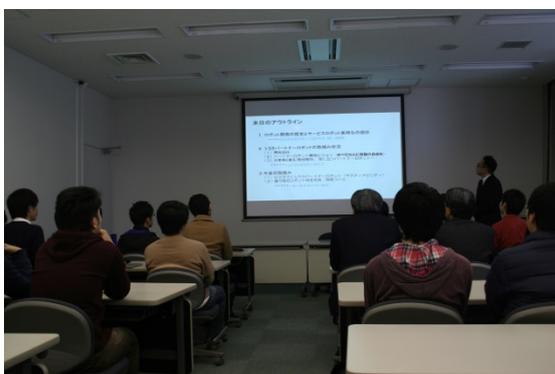
世話人：小栗宏次（愛知県立大学 情報科学部 情報科学科 教授）

情報科学共同研究所所長小栗教授の開会の挨拶の後、玉置先生より、トヨタパートナーロボット開発の状況を中心に講演があり、24名の学生と10名の教職員、計34名の参加があった。講演の後には、30分程度の質疑の時間あり、数名の学生と教員から質問があり、有意義な時間であった。

【開会の挨拶（小栗先生）】



【玉置先生のご講演】



【質疑応答の時間（玉置先生および質問者）】



【集合写真（講師および参加者）】



## 瀬戸商工会議所パソコン講習会実施結果

(瀬戸商工会議所との共催)

1. 開催日時：平成27年3月2日（月）、4日（水）～9日（月）18:30～20:30
2. 会場：情報科学部棟コンピュータ演習室等
3. 参加者：瀬戸市内の小規模事業者11名
4. 目的：小規模事業者のレベルアップを図るため、パソコン講習会を実施
5. 講師及び内容

データ活用コース 7名		
3月2日	パソコンをビジネスに活かす	奥田 隆史 教授
3月4日	エクセルのビジネス活用 基礎編	平尾 将剛 講師
3月5日	エクセルのビジネス活用 応用編	神谷 幸宏 准教授
3月6日	写真の加工と広告作成	永井 昌寛 教授
3月9日	ホームページ作成	太田 淳 准教授

スマホ・タブレットコース 4名		
3月2日	スマホ・タブレットを使ってみる	作村 諭一 准教授
3月4日	スマホ・タブレットで遊んでみる	作村 諭一 准教授
3月5日	スマホ・タブレットを活用する	小林 邦和 准教授
3月6日	スマホ・タブレットのためのHP作成1	入部 百合絵 助教
3月9日	スマホ・タブレットのためのHP作成2	粕谷 英人 講師

6. 会場の様子

【開講式】



【講習風景】



## NEXT COMMUNICATION AWARD 2014 で、愛知県立大学の学生が多数表彰されました

NEXT COMMUNICATION AWARD 2014 において、愛知県立大学の学生 18 名がマーケティングアイデア部門とアプリ開発部門の 2 部門 3 テーマで受賞しました。うちアプリ開発部門 2 テーマでは、それぞれグランプリを獲得しました。

### 【最終審査会・表彰式の様子】



## NEXT COMMUNICATION AWARD 2014 とは？

産官学共同プロジェクトである NEXT COMMUNICATION FORUM が主催するコンテストであり、2014 年度はスマートフォンやタブレットを活用したマーケティング企画のアイデアを提案するマーケティングアイデア部門、および iOS、Android™ OS で動作するネイティブアプリもしくは、HTML5 を使った WEB アプリケーションを提案するアプリ開発部門の 2 部門で実施された。

### 対象：

東海 4 県（愛知県・静岡県・岐阜県・三重県）にある大学・大学院・専門学校・高等専門学校に在学中の学生

### 主催：

名古屋工業大学大学院 岩田彰研究室、名古屋大学大学院 安田研究室  
愛知県立大学 小栗研究室、株式会社 NTT ドコモ

### 協賛：

東山動植物園、名鉄グループ

### 特別協力：

株式会社エイチーム

### 協力：

株式会社インテルプレス（REAL 編集部）

### 公式サイト：

<http://www.ncf.jp/>

## ○マーケティングアイデア部門

### 【テーマ】

スマホやタブレットを活用した東山動植物園をもっと楽しめるアイデア

協賛：東山動植物園

### ◆入賞

動植物について持続的に興味をもたせるアプリ 川上 莉奈

動物たちは本当はどんなところにいるの？ 高橋 千紗

## ○アプリ開発部門

### 【テーマ①】

120周年を迎える名鉄グループを「もっと便利に」「もっと楽しめる」アプリ

協賛：名鉄グループ

### ◆グランプリ

Satellite 明治村 チーム名：明治むらび 近藤 里帆、岸 稚佳、村田 亮平

東海地方にある明治時代からのスポットを「サテライト明治村」として、明治時代からタイムスリップしたオリジナルキャラクターが紹介してくれるアプリです。明治村に行ったことのない人も、近くのサテライト明治村スポットへ行ってみることで、明治時代に興味・関心を持ち、明治村に足を延ばしてもらうことが期待できます。



Satellite 明治村の画面例

### ◆入賞

ナナちゃん NFC コレクション 安達 勇介

乗り心地バトル Smart Train チーム名：APU 鉄道 早田 有利、柴田 千里、藤澤 洋佑

## 【テーマ②】

生活がもっと楽しくスマートになるアプリ

### ◆グランプリ

VoiSmart チーム名：APUリ隊（あぷりたい） 磯村 淳、石原 未彩、森田 賢徳

自分の気持ちを相手に伝えるコツを学んだり、相手の感情を知ることができるアプリです。こっそり練習（一人プレーモード）では自分で録音した声に対しての評価と得点結果が表示されます。また、ひっそり解析（大人数モード）では会話相手の声を録音することで、相手の感情パターンが表示されます。このアプリを使えば、コミュニケーション力の上達を狙えるかもしれません。



VoiSmart の画面例

### ◆優秀賞

めざせなかよし！白黒うさぎのおえかき診断

チーム名：のちったん 石野 友美、本多 千鶴

### ◆入賞

育成万歩計 山口 大貴

CENTRAIR TIME チーム名：かれーぱんぷきん 西野 咲子、秋元 健吾、小田 賢

※氏名掲載者はいずれも愛知県立大学の学生。

—平成 26 年度新あいち創造研究開発補助金採択事業—  
横断歩行者・道路標示監視装置の研究開発

交通事故死ゼロ社会を目指し

地域の企業と共同で、新たな I T システムの実証実験を開始

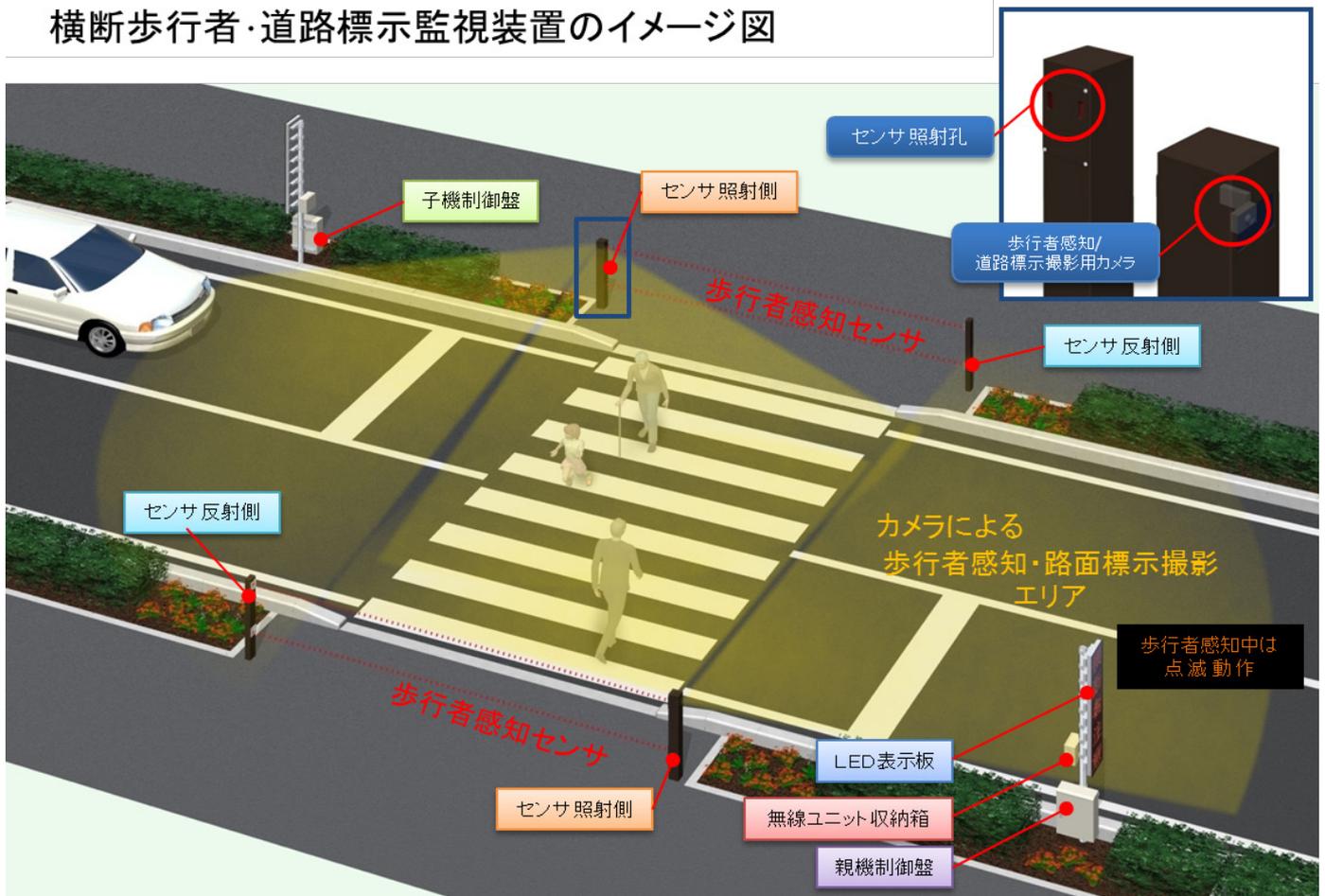
愛知県立大学情報科学部小栗・河中研究室では、交通事故死ゼロ社会を目指したシステム開発をしています。

このシステムは、多発している歩行者の横断歩道上における事故の抑制を目的としたもので、センサ技術を活用した、ドライバーの歩行者見落とし防止を支援する「横断歩行者感知システム」と、画像処理技術を活用した、道路標示の経年劣化を定量的に監視する「道路標示劣化監視システム」の複合システムです。

本事業は、愛知県が実施している平成 26 年度新あいち創造研究開発補助金に採択されており、株式会社キクテック（名古屋市）と共同で研究が進められています。

今回、平成 27 年 1 月 16 日（金）より愛知県立大学構内の横断歩道にシステムを設置し実証実験を開始いたします。

横断歩行者・道路標示監視装置のイメージ図



## <システムの概要>

### ① 横断歩行者感知システム

信号機の無い横断歩道とその付近を横断している歩行者をセンサーおよびカメラによって認識し、横断者のある時には表示板の文字を発光させることで歩行者の有無についてのタイムリーな情報を接近するドライバーに提供することができる。既存のシステムでは飛び出し等への咄嗟の対応が困難であったが、本システムではドライバーに対する飛び出し等の危険予知が即座に可能であり、歩行者の安全を担保することにつながり、政府の掲げた交通事故死者数低減への効果が期待される。

### ② 道路標示劣化監視システム

経年変化により摩耗する横断歩道の白線を歩道上から撮影するカメラにより定期的に監視し、そのデータベース分析によってメンテナンスに必要な情報を提供する。従来の道路標示の劣化調査は道路上において行われ、その安全上の不安から調査方法にばらつきが発生し精度の高い評価ができなかったが、本システムによって歩道上から安全かつ自動的に定量評価するとともにメンテナンス事業量を画像から把握でき、白線の適切な塗替え時期を提案することが可能となる。メンテナンスの行き届いた白線によって道路標示を検知して車両を制御する装置の認識精度が向上すれば、車両の予防安全に対する信頼性も高まり、装置の普及が促進されて県内に多数ある自動車関連産業の活性化に寄与できる。

## その他の産学連携活動

### ○自動走行のための次世代路面標示研究会の開催（公益財団法人科学技術交流財団研究会事業）

第1回：平成26年6月27日（金） 第2回：平成26年8月22日（金）

第3回：平成26年11月7日（金） 第4回：平成27年2月20日（金）

座長：河中 治樹（愛知県立大学情報科学部情報科学科准教授）

概要：

自動走行の実現方法には様々なものがあるが、車載カメラによる白線検知を自動走行の手がかりとしていることが多い。しかし、白線のようなこれまでの路面標示はあくまでも人間の視覚に対する刺激としてその役割を果たしており、自動走行に適したものであるとは限らない。そこで、自動走行が普及していく時代を見据えて、重要なインフラのひとつである路面標示のあり方について、とくに次世代の路面標示の素材・施工・維持管理方法について議論する。

### ○共同研究推進事業の実施（事業主体：公益財団法人科学技術交流財団）

研究テーマ：カフレス血圧計を用いた常時健康モニタリングシステムの開発

統括研究者：小栗 宏次（愛知県立大学情報科学部情報科学科教授）

研究参加者：愛知県立大学、名古屋大学大学院医学研究科、  
愛知県立芸術大学、株式会社デンソー

概要：

血圧測定は高血圧診断や患者モニタリングに有用であるが、計測時のカフによる締め付けは患者の負担が大きく常時モニタリングが難しい。そこで愛知県立大学では、カフレス血圧計の開発に取り組み、スマートフォンを用いたポータブルなカフレス血圧計を製作して、患者の負担無く簡易に血圧を計測できる仕組みを確立した。

本研究では、この成果をもとに“カフレス血圧-クラウドシステム”を構築し、既存血圧計では不可能な日常血圧のモニタリングができる「常時健康モニタリングシステム」を開発する。さらに、そのデータをもとに生活習慣に関する指導を行うことでビッグデータに基づく生活習慣改善の効果を検証する。本システムによって高血圧の諸症状に応じた指導や在宅患者の常時モニタリングの実現が期待できる。

### ○ガジャマダ大学産学連携プロジェクト

愛知県立大学は、インドネシアの古都ジョグジャカルタに所在する基幹大学であるガジャマダ大学と、相互に蓄積してきた専門性を活かして、経済成長著しいインドネシアに進出する現地日本企業で活躍しうる次世代の人材を育成するための産学連携事業を行っています。

プロジェクトの詳細は、愛知県立大学発行の「ガジャマダ大学産学連携プロジェクト」報告書をご覧ください。

## 5. 参考資料

### ○地域連携センター ウェブサイト

ウェブサイトアドレス <http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>

地域連携センターの概要や活動報告、これから開催する講演会、講座等の情報を掲載しています。

また、平成 27 年 4 月にリニューアルを行い、講演会、講座へのお申込みを上記ウェブサイト上から行えるように変更いたします。

スマートフォン向けページも新たに公開いたしますので、より一層本学の地域連携に関する情報を見やすく、分かりやすく提供してまいります。

当センター年報のアーカイブも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

平成27年3月発行

編集・発行 愛知県立大学地域連携センター

愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3

電話:0561-76-8843

<http://www.bur.aichi-pu.ac.jp/renkei>